

東京国際空港(羽田空港)の概要

総面積: 1,516ヘクタール【うち 水域94ヘクタール】(大田区の面積の約1/4、渋谷区とほぼ同じ)
 旅客数: 8,692万人(国内6,838万人/国際1,854万人)【約 24万人/日】
 取扱貨物量: 120.6万トン(国内64.5万トン/国際56.0万トン)
 年間発着枠: 48.6万回(1日当たり約1,332回)※旅客数、取扱貨物量は令和元年暦年確定値

※出典: 東京航空局HP(管内空港の利用概況集計表)、空港管理状況調査



主要施設		
	滑走路長(m) × 幅(m)	供用年度
滑走路	A 3,000 × 60	1988.7.2
	B 2,500 × 60	2000.3.23
	C 3,360 × 60 ※360m延伸部	1997.3.27 (※2014.12.11)
	D 2500 × 60	2010.10.21
エプロン	2020.8月 現在241スポット	

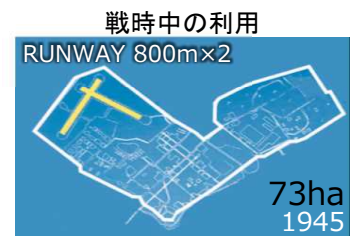
羽田空港の沿革〈空港(飛行場)の変遷〉

● 沖合展開事業

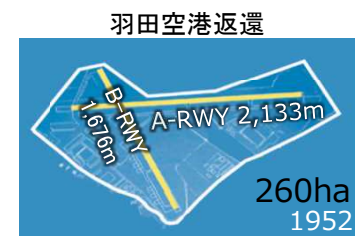
総面積: 約 53ha → 約 1,516ha
[1931年] [現在]



1931年 (S6) 海老取川
東京飛行場を羽田に設置
(立川から移転) (300m × 15m)
初の国営民間航空専用飛行場



1945年 (S20)
GHQによる飛行場接收
拡張工事着手
※48時間以内の退去命令
羽田鈴木町・羽田江戸見町
羽田穴守町の三町
(1,320世帯/2,894名)



1952年 (S27)
GHQから大部分が
日本に返還
(運輸省所管)
東京国際空港に改称

70.6万人
1958年



1964年 (S39)
旧C滑走路供用開始
(3,150m × 60m)

449.8万人
1965年



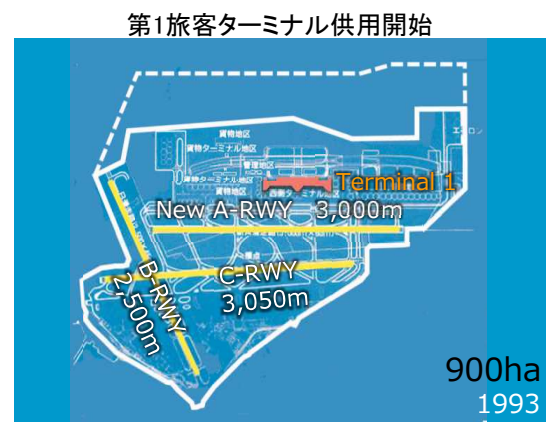
1971年 (S46)
B滑走路延長 (2,500m)
1975年 騒音区域の指定 (S50)
1978年 成田空港開港 (S53)

2,081万人
1980年



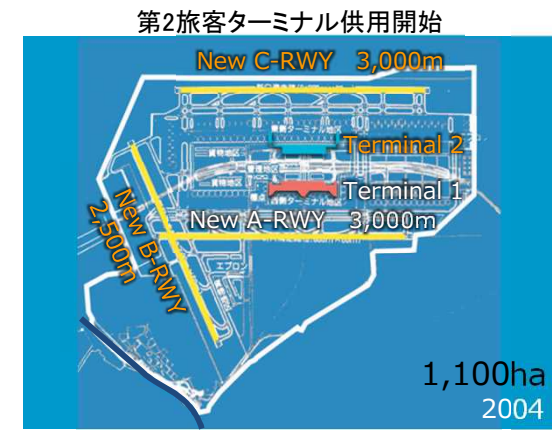
1988年 (S63)
沖合展開事業第Ⅰ期工事完成
新A滑走路供用開始
(3,000m × 60m)

4,018.8万人
1990年



1993年 沖合展開事業第Ⅱ期工事完成 (H5)
第1旅客ターミナルビル供用開始

5,640.2万人
2000年

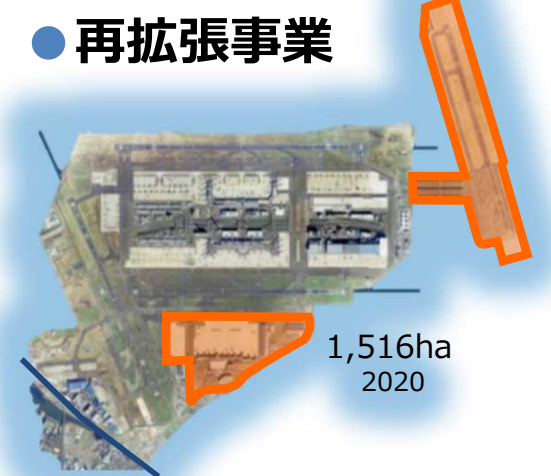


2007年 沖合展開事業第Ⅲ期工事概成 (H19)
再拡張事業(D滑走路)着手

2010年 1月12日 新管制塔供用開始、成田とのターミナルレーダー業務統合 (H22)
10月21日 D滑走路供用開始、新国際線旅客ターミナルビル供用開始
10月31日 再国際化(国際定期便就航再開)

2014年 3月20日 国際線旅客ターミナルビル増設部供用開始 (H26)

2020年 3月29日 第2旅客ターミナルビル国際線施設供用開始 (R2)
新飛行経路供用開始



● 再拡張事業

8,692万人
2019年